

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織 人間力創成総合教育センター

基準 1 理念・目的

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、全学共通教育の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2) 全学共通教育の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	A
		(3) 全学共通教育の育成する人間像は、明確ですか。	A
		(4) 全学共通教育の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。	A
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および全学共通教育の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1) 全学共通教育の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やホームページなど)との記述の齟齬	A
		(2) 教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、全学共通教育の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知 ・社会に対しての公表	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	* 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0101 (2)	人間力創成総合教育センターは、深い教養に裏付けられた専門的知識を習得するため、人間力育成に関わる教養教育を実施する機関として設置された[0101a]。センターは「全学共通教育」による「あてになる人間」の育成を目指している。「豊かな教養」「自立心」「国際的視野」などを習得するために、8つの教育プログラムが設定されており、学部専門教育とあわせて「あてになる人間」を育成している[0101b]。
0101 (3)	(2)で示したように、人間力創成総合教育センターの教育研究上の目的は明確に定められている。「人間力」とは、理事長が述べ、副学長が記した「思いやり、逆境に打ち勝つ力、考えを伝える力、実行力、やる気、高等教育のための基礎力」を総合した力である[0101c]。
0101 (4)	この「全学共通教育」による教育研究上の目的は、大学の基本理念・使命・教育目的「不言実行、あてになる人間」の育成と密接に関連する[0101d]。
0102 (1)	(2) 人間力創成総合教育センターの目的や育成する人間像は、大学のホームページ(HP)に公表され周知されている[0102a]。
長所・特色	《箇条書き》 * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となる

もの	
項目 No.	特になし
課題事項	《簡条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 0101	人間力創成総合教育センターは全学共通教育部を引き継ぎ、現状では当センターに所属する教員の所属形態がセンター兼務と学部本務と混在している。この状況では各構成員の人事や昇格などに問題が生じており、共通教育科目担当者の決定にも問題が生じている。したがって、全学共通教育の教育研究上の目的を達成するためにも、教員組織の在り方や、各構成員の全学共通教育の負担や昇格条件等を多角的に評価する基準の作成を必要とする。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

＜改善・向上の進捗状況＞

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
	特になし

＜今後の改善・向上計画＞

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0101	人間力創成総合教育センター内の組織の在り方について人間力創成総合教育充実検討委員会で議論を行い、目的を実現するための組織案を明確にして、大学へ提言する。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0101	a	中部大学 学びの拠点を目指して_アンテナ2018年6月教員総会特別号P3-6 (学長)	○
0101	b	人間力創成総合教育センターHP(1) <a href="https://www3.chubu.ac.jp/global_education/">https://www3.chubu.ac.jp/global_education/</a>	○
0101	c	教養教育を新たなステージへ_アンテナ2018年7月P2	○
0101	d	中部大学HP_大学概要 基本理念・使命・目的 <a href="https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/">https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/</a>	○
0102	a	人間力創成総合教育センターHP(2) (設置目的に関する部分) <a href="https://www3.chubu.ac.jp/global_education/">https://www3.chubu.ac.jp/global_education/</a>	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

**基準 2 内部質保証**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(4)外部評価(学内のピアレビュー受審を含む)を自己点検・評価に取り入れていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 *「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。</p>	
<p>0203 (4) 人間力創成総合教育センターは2019年に自己点検・評価(ピアレビュー)を受けている。さらに、全学的な自己点検・評価として次の2種類の学内評価を受けている[0203a][0203b]。                  第1の自己点検は、全学的に実施されている教員による自己評価である。各教員は年度はじめに教育活動重点目標を教育、研究、社会的貢献などの項目別に記載し、年度末に当初目標の達成度を「自己評価」して記入する。提出された各教員の目標と自己評価は、各部署長が確認し、最終的に学長が確認する[0203a]。                  第2の自己点検は、各教育プログラム(EP)会議において実施される。その成果は、学部等の組織に課される重点事業計画に反映される。人間力創成総合教育センターから提出される事業計画は、教育活動、教育体制、施設、国際化への対応、高大連携教育、初年次教育とキャリア教育の整備充実を亘る。人間力創成総合教育センターのセンター長と副センター長は、提出した重点事業計画書に対して学長および執行部との面談による質疑を受け、そこでの質疑応答を総合的に自己点検・評価に利用する[0203b]。                  人間力創成総合教育センターの教員会議(学部の教授会に相当)と運営委員会(EP長、補佐、主任が参加、学部の主任会に相当)で、センターのピアレビューの結果が報告され、議論される[0203c]。さらに、各EPではEP会議が開かれ、教育の質保証に関わる検討が行われる。実績として、2019年度自己点検・評価の改善活動がある[0203d]。</p>	
<p>長所・特色 &lt;&lt; 箇条書き &gt;&gt; *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No.	特になし
項目 No.	
<p>課題事項 &lt;&lt; 箇条書き &gt;&gt; *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No.	特になし
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
<p>人間力創成総合教育センターは、2019年度自己点検・評価を受け、その改善を行った[0203d]。以下に、その例のいくつかを示す。</p> <p>シラバスと講義内容との整合性の検証について、「学生による授業評価」の新設問「授業はシラバスに基づいた内容で行われましたか」の回答結果を利用し、シラバスと講義内容の整合性を図った。この活動は完了案件として届けた。</p> <p>2019年6月10日に大学から依頼のあった「学部等重点事業計画について」を受けて、各EPから提出された2019年度の実施案件・2020年度の事業計画などをとりまとめて、学長ヒアリングを受けた。この過程で各EPの自己点検が行われた[0203b]。</p>

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0203	特になし

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0203	a	教員活動重点目標・自己評価シート様式	○
0203	b	学部等重点事業計画 (2019年度と2020年度)	○
0203	c	人間力創成総合教育センター規程	○
0203	d	2019年度 (対象: 2017-2018年度) 自己点検・評価「個別課題」改善報告	○

提出区分 … ○: 本シートと一緒に提出する資料    △: 現部署で保管

2021 年度（対象： 2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織 人間力創成総合教育センター

基準 4 教育課程・学習成果（2）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(2) シラバスに次の内容を組み込んでいますか。 また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・ 授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・ 授業内容とシラバスとの整合性の確保	A
		(3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。	A
		(4) 授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・ 授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・ 履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。	A
0405	成績評価、単位認定は適切に行っていますか。	(1) シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・ シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	A
		(2) 既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・ 規程等に基づく単位認定のプロセス	A
		(3) 成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 \* 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。

0404 (2) シラバスには「授業の趣旨」、「具体的達成目標」、「授業前・授業後の学修」（準備や課題）とともに毎回の「授業計画」、「授業方法」、「成績の評価方法」、「成績の評価基準」が明記されている [0404a]。また授業内容とシラバスの整合性については、2008年度より開始した「魅力ある授業づくり」の活動によって教員による自己評価および学生による授業評価を受けるとともに、教務モニター制度の学生意見等によるヒアリングなどから整合性を毎学期末に確認している [0404b] [0404c]。また、秋学期末にEP主任を中心に「第三者点検」によるシラバス内容の評価・確認を行っている [0404d]。さらに、語学EP（日本語教育）では、受講生が留学生であることに配慮し、入学時に日本語クラスに関するオリエンテーションを行っている [0404e]。

0404 (3) 学生の主体的参加を促すものとして、「芸術の世界」では授業後に感想文の提出を課し、特定課題教育科目「地域共生実践」「持続学のすすめ」「地域の防災と安全」やキャリア教育科目「自己開拓」では、グループワークを活用したアクティブラーニングを展開している [0404f] [0404g] [0404h] [0404i] [0404j]。

0404 (4) 授業編成および履修人数などに関する運営状況について、EP会議や運営委員会などで調整および確認している [0404k] [0404l] [0404m]。履修ガイダンスは大学教務支援課の履修指導等に従って実施されている。また、各EPの対応により、適切な授業運営に努めている。根拠資料では、一例として、語学EP（英語）の編成状況と、初年次EPの全学科スタートアップセミナーの編成関連資料、専門職EP（教職課程）の主体的な活動のための少人数を意識した授業編成表を示す [0404n] [0404o] [0404p]。

0405 (1) シラバスの「達成目標」にそった成績評価は各教員が実施しており、各EPで成績評価の確認を行っている。さらに、成績評価に疑問がある場合には、学生が一定期間内に確認を願い出る制度を設けている [0405a] [0405b]。

0405 (2) 既修得単位の認定については、中部大学学則第4章に定められ適切に行われている [0405c]。また、各EPにおいて確認・調整が行われている。

0405 (3) 成績評価の客観性、厳格性については、「成績の評価方法」、「成績の評価基準」に関するシラバスの第三者点検を通じて確認している。EP会議で授業評価について議論を行うことで、成績評価についての客観性や厳格性を保つ努力をしている。また、学生には成績確認期間を設け、成績に疑問がある場合には決められた期間内に問い合わせができることで、客観性を保つ努力をしている [0405a] [0405b]。

長所・特色 《箇条書き》 \*先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの

項目 No. 0404(2)	シラバスには授業の「趣旨(目的)」「達成目標」「授業計画」「成績の評価基準」が明記してあり、適切性を第三者点検によって確認している [0404a][0404d]。
項目 No. 0404(3)	特定課題教育科目（例えば、「地域共生実践」「持続学のすすめ」「地域の防災と安全」）、キャリア教育科目（例えば、「自己開拓」）など、グループワークを活用したアクティブラーニングを展開している [0404g] [0404h][0404i][0404j]。
項目 No. 0404(4)	スタートアップセミナーの運営を担当する初年次 EP では、全学科の授業運営状況を収集し、適切な授業運営の補助に努めている [0404o]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項 目. 0404(4)	抽選の競争率が高い科目については、学生の要望に応えるためにコマ数を増やして抽選の競争率を2倍以下に抑える取り組みを行う [0404q]。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0404 科学技術リテラシーの科目には聴講希望者が多く、抽選の競争率が3倍を超えるものも含め、多数あるので、これを分析して一部の科目については実際にコマ数を増やし、成果を挙げた。学生の要望に応えるために抽選の競争率を2倍以下に抑える方針を打ち出している [0404q]。
0404 特定課題教育科目（例えば、「地域共生実践」「持続学のすすめ」「地域の防災と安全」）、キャリア教育科目（例えば、「自己開拓」）など、アクティブラーニング（グループワークなど）を導入し、学生の主体的参加を促す新しい授業形態の構築にむけた取り組みを実践している [0404g] [0404h][0404i][0404j]。
0404 特定課題教育科目「地球を観る」において、特設授業ウェブページを開設し、オンデマンドによる学修効果の向上に向けた教材開発を開始した[0404r]。
0404 特定課題教育科目「人類と資源」において、授業内容および担当者を一新し、現在の中部大学生が主体的に参加できる科目として再スタートした。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
No. 0404 (2)	人間力創成総合教育センター内でのEP主任によるシラバスチェックの情報共有
No. 0404 (3)	人間力創成総合教育センター内およびEP内における学生の主体的参加をよりいっそう促す授業形態・授業内容の検討
No. 0404 (4)	人間力創成総合教育センター長をワーキング長として、今後のキャリア教育のあり方を検討するWGを実施する [0405d]。
No. 0404 (4)	初年次EPにおいて、中部大学における入学前教育のあり方を議論し、実施に向けて体制を整える [0405e]。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0404	a	大学HP シラバス/サンプルページ 「世界の歴史と日本」(人文リテラシー科目) <a href="https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2019&amp;value(semekikn)=1&amp;value(kougicd)=11149&amp;value(crclumcd)=01000000002016">https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2019&amp;value(semekikn)=1&amp;value(kougicd)=11149&amp;value(crclumcd)=01000000002016</a>	○
0404	b	大学HP_魅力ある授業づくり <a href="https://www2.chubu.ac.jp/quest/about/">https://www2.chubu.ac.jp/quest/about/</a>	○
0404	c	授業改善のための学生懇談(教務モニター)	○
0404	d	「シラバスの記載内容における第三者点検について(お願い)」	○
0404	e	2019留学生日本語オリエンテーション資料	○
0404	f	感想文のあるもの「芸術の世界」シラバス	○
0404	g	アクティブラーニング:地域共生実践シラバス	○
0404	h	アクティブラーニング:持続学のすすめシラバス	○
0404	i	アクティブラーニング:地域の防災と安全シラバス	○
0404	j	アクティブラーニング:自己開拓シラバス	○

0404	k	特定課題EPの授業状況	○
0404	l	2019年度 人間力創成総合教育センター運営委員会議事録 (第1回, 2回)	○
0404	m	2019年度_全学共通教育科目履修者数_20191101 (印刷用)	○
0404	n	授業編成表(英語)	○
0404	o	授業編成作業スタートアップセミナー2019年度	○
0404	p	2019年度開講クラス数・受講者数一覧 教職課程	○
0404	q	科学リテラシー報告書2020 (2021年度運営委員会資料)	○
0404	r	地球を観る (2020秋学期)	○
0405	a	大学HP成績評価の基準 <a href="https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/grade/">https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/grade/</a>	○
0405	b	成績報告について2019・2020年度 (教務支援課からの文書) (特に7を参照)	○
0405	c	中部大学学則(抜粋)	○
0405	d	キャリア教育WG案210315	○
0405	e	入学前教育に関する副学長からの依頼文	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管



2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

基準 4 教育課程・学習成果（3）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	学生の学習成果を適切に把握および評価をしていますか。	(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標	A
		(2) 成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	A
		(3) 学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	* 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0406	(1) 各授業担当教員は、シラバスに示されている「授業の具体的達成目標」の下、「成績の評価方法」「成績の評価基準」によって指標を定め、成果を確認している。また、「魅力ある授業づくり」のシステムを利用して教員および学生相互の評価を行うことで問題が無いかを確認している。このことはシラバスに則った学修が適切に行われているかどうかの確認も兼ねている。さらに本学では、GPA(Grade Point Average)制度を導入し、成果および学習指導に用いている [0406a] [0406b][0406c]。また、語学EP（英語）では、一部の科目において、共通テス

<p>トを行い、その資料を整理し授業改善に活用している [0406d]。語学EP（日本語スキル）では、学習状況把握のため、毎週の小テストを行っている [0406e]。さらに、コロナ禍対応として、例えば、教養課題EP（科学技術リテラシー）では、LMSであるCoursePowerやGoogle Classroomを用いて、学生の理解度評価を緻密に行っている [0406f]。</p> <p>0406 (2) 成績分布、進級等の情報は、各学部の教授会などで統計資料が各教員に配布されることで確認している [0406g]。</p> <p>0406 (3) 学習成果の把握および評価については、各教員による授業期間中の①レポート、テストなど [0406h]、②学習成果の測定を含む学生による評価（「魅力ある授業づくり」システム）を中心として実施している [0406b]。</p> <p>0407 (1) 「魅力ある授業づくり」システムを通して各教員が自己の授業内容を改善し、また、毎年義務付けられている「教員活動重点目標・自己評価シート」で自己点検・評価を行っている。さらに、毎年度「教育・研究活動に関する実態資料」が刊行され、教員の教育・研究・社会貢献活動について情報共有している [0407a] [0407b]。各EPにおいて教育課程に関わる議論を行うとともに、運営委員会でEP間の情報共有や議論を行い、教育課程の検討を多面的に実施している [0407c]。語学EP（英語）では、科目責任者が、全クラスの共通テストの結果を分析し、教育課程の検討に活用している [0406d]。</p> <p>0407 (2) 人間力創成総合教育センターでは、運営委員会で、履修者数や成績の状況などについて情報共有を行っており、そのときに、教育課程に関わる課題を議論している。各EPで検討された課題が運営委員会で議論され、教務委員会へと提言されるので、明確な点検・改善システムとなっている [0407d]。</p>	
<p>長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目No. 0406(1)	「魅力ある授業づくり」システムによる教員の自己評価および学生による評価をうけることで学生の学習成果を向上させる仕組みを構築している[0406b]。
項目No. 0406(1)	Google Classroom+Zoomによる双方向授業、記述レポートの回収[0406f]
<p>課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点</p>	
<p>特になし</p>	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
0406	2017年度までキャリア教育科目（社会人基礎知識および自己開拓）の教育効果検証を行った教員を、客員准教授として2021年度採用し、改めて自己開拓の教育効果検証を試みる。

<今後の改善・向上計画>

項目No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
	特になし

### 4. 根拠資料

根拠資料No.	根拠資料の名称		提出区分
項目No.	記号		
0406	a	大学HP シラバス/サンプルページ 世界の歴史と日本」（人文リテラシー科目）シラバス	○
0406	b	大学HP_魅力ある授業づくり <a href="https://www2.chubu.ac.jp/quest/about/">https://www2.chubu.ac.jp/quest/about/</a>	○
0406	c	大学HP / 成績評価の基準 <a href="https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/grade/">https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/grade/</a>	○

0406	d	共通テストを活用した成果の確認と授業改善	○
0406	e	日本語スキル小テスト	△
0406	f	2020年度 微分積分学 I Google Classroom	○
0406	g	卒業進級判定資料 2020年度工学部	○
0406	h	「芸術の世界」シラバス	○
0407	a	教員活動重点目標・自己評価シート様式	○
0407	b	「教育・研究活動に関する実態資料」(学外非公開) 大学HP <a href="https://www3.chubu.ac.jp/university_education/publication/publication/contents/">https://www3.chubu.ac.jp/university_education/publication/publication/contents/</a>	○
0407	c	2020年度各 EP 活動報告書(運営委員会資料)	○
0407	d	人間力創成総合教育センター規程	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料    △ : 現部署で保管

2021 年度（対象： 2019～ 2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1) 大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	B
		(2) 教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師または助教)の適正な配置 ・国際性、男女比等に配慮した教員配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(3) 学士課程における教養教育の運営体制を整備していますか。	B
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1) 教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	A
		(2) 規程等に従った適切な教員人事(募集、採用、昇任等)を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1) FD活動を組織的に実施していますか。	A
		(2) 教員の教育活動、研究活動、社会活動等を評価し、その結果を活用していますか。	A
0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	A
		(2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	*「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0602	<p>(1) 人間力創成総合教育センターには適置する教員数に明確な基準は無いが、担当する授業科目の運営が適切に行えるよう、教員配置を整えるべきである。教員の編成は次の(2)で述べるが、授業担当教員の確保が難しい場合もあり、教員の適切性の観点からは課題を有している [0602a] [0602b] [0602c]。</p> <p>(2) 人間力創成総合教育センターは、人間力基礎教育部と人間力発展教育部から構成され、両教育部はそれぞれ異なる4種類の教育プログラム(EP)から成る。人間力基礎教育部は初年次、語学、情報、健康とスポーツのEPから構成され、人間力発展教育部は、2019年度は、教養課題(人文・社会リテラシー/科学技術リテラシー)、特定課題、キャリア、教職課程の各EP、2020年度以降は、教養課題(人文・社会リテラシー/科学技術リテラシー)、特定課題、キャリア、専門職の各EPから構成されている[0602d]。各学部への配置は次のとおりである。経営情報学部:キャリア教育、工学部:教養課題(科学技術リテラシー);特別課題;情報スキル、応用生物学部:教養課題(科学技術リテラシー)、人文学部:教養課題(人文・社会リテラシー)、国際関係学部:語学(英語を除く)、生命健康学部:健康とスポーツ、現代教育学部:語学(日本語スキル)。これらの各学部に配置された教員は、全学共通教育科目の担当だけでなく、各学部学科の専門教育も担当する教員がでてきており、各教員にとって大きな負担を強いることとなっている。このことについては早急に抜本的な改革が望まれる。また、この各学部に配置された状態では、全学共通教育科目の授業運営だけでなく、教員の確保や昇格の観点からも課題が多い。この点についても適切な教員配置の在り方を議論しなくてはならない。ちなみに2020年度において、センター本務の教員は31名、兼務の教員は97名であり、実に80%近くの教員が他学部に本務がある状態にある。さらに、各EPでも組織上の問題点・課題についてはEP会議等で議論されている。例えば、語学EP(外国語)では、特にドイツ語・スペイン語の専任教員の必要性について議論されている[0602e]。</p>
0603	<p>(1) 2018年5月8日に「人間力創成総合教育センター本務教員及び学部所属の教育プログラム兼務教員(学科所属教員を除く)の人事に関する申し合わせ」を整備した[0603a]。また、2018年10月2日「人間力創成総合教育センター昇格基準申し合わせ」を整備した[0603b]。募集、採用、昇任等の願い出に対して、大学の人事担当常勤理事・副学長が審査委員会を開き、規程等に従った適切な教員人事が行われるように調整している。</p>
0603	<p>(2) 2019年度～2020年度において採用、昇任の実施件数は8名である。今後も大学の規程にそった募集、採用、昇格等の適切な運用を実施してゆく予定である。</p>
0604	<p>(1) 組織的なFD活動は、人間力創成総合教育センターを構成するEPごとに行われている。FD活動に関する打ち合わせには頻度差があるが、これは各EPの教員数、担当科目、業務内容によって変化する。最も高い頻度で行われているのは、専門職EP(教職課程)であり、ここでは専任教員が週1回のミーティングを行いながら、活動の計画書を作成し、それに沿って、分担・実施、評価をおこなっている [0604a] [0604b]。</p>
0604	<p>(2) 人間力創成総合教育センターの各EPから毎年提出された「活動報告」をセンター全体で情報共有し、必要に応じて運営委員会や教員会議で議論することでFD活動を実施している [0604c] [0604d]。また、各学期末(春学期と秋学期)に「魅力ある授業づくり」の一環として、学生による授業評価を自由記述形式で求め、各教員は自身の授業評価に対する結果の閲覧が可能である。またセンター長等役職教員も、各教員の授業評価の結果が閲覧できる。これらの情報は各教員の授業の改善と向上を促すために提供されている[0604e]。</p>
0605	<p>(1) 人間力創成総合教育センターでは、上述の「活動報告」に基づき、各EP単位で自己点検・評価を実施している[0604c] [0604d]。さらにセンターとしては、大学からの指定により「各組織における自己点検・評価委員会」を設立し、必要に応じて、自己点検・評価の議論する体制を確立している[0605a]。</p>
0605	<p>(2) 人間力創成総合教育センターでは、基本1EP単位で、自己点検・評価に関する改善にとりくんでいる。また、センター全体として取り組むべき課題がある場合には運営委員会等で議論する。</p>
長所・特色	《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目No.	特になし

項目 No.	
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 0602(2)	本学における全学共通教育の体制およびセンターの教員組織に関する抜本的改革が望まれる。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0602 (2)	人間力創成総合教育センターには本務の教員が2割程度であり、多くの教員が兼務で運営する組織体制となっている。この体制では、将来的に人員確保等が困難となるため、抜本的改革が必要である。また各学部学科からのより一層の協力体制を必要としており、この点についても将来的に取り組む必要がある。

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0602	人間力創成総合教育センターの組織体制や兼務教員の扱い等について改善のための議論を、人間力創成総合教育充実検討委員会専門委員会および人間力創成総合教育充実検討委員会で行う予定である。
0605	人間力創成総合教育センターの自己点検・評価については、今後とも運営委員会等で話し合い、その方法についても議論を深め、結果を共有する。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0602	a	大学ホームページ情報公表（基本理念・使命・目的、教育研究の質の向上のための各種方針等、法令定員と教員組織） <a href="https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/">https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/</a> <a href="https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/know/policy/">https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/know/policy/</a> <a href="https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/2019/1-5.pdf#page=1">https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/2019/1-5.pdf#page=1</a> <a href="https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/2020/1-05.pdf#page=1">https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/2020/1-05.pdf#page=1</a>	○
0602	b	中部大学 教員数2019	○
0602	c	中部大学 教員数2020	○
0602	d	人間力創成総合教育センターHP <a href="https://www3.chubu.ac.jp/global_education/">https://www3.chubu.ac.jp/global_education/</a>	○
0602	e	2020年度語学EP(外国語) 現状報告	○
0603	a	人間力創成総合教育センター人事に関する申し合わせ	○
0603	b	人間力創成総合教育センター昇格基準申し合わせ	○
0604	a	2019FD活動推進計画書（教職課程）	○
0604	b	2020FD活動推進計画書（教職課程）	○
0604	c	2019年度各EP活動報告書	○
0604	d	2020年度各EP活動報告書	○
0604	e	授業評価集計結果(2019年度春秋・2020年度秋)	○
0605	a	2020年度 各組織における自己点検・評価委員会名簿・連絡表	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2019～ 2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織 人間力創成総合教育センター

基準 7 学生支援

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2) 学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>0702 (2) 学習支援室において補習教育、補充教育などを実施しており [0702a]、留学生、障がいのある学生等の多様な学生に対する修学支援は、国際センター（留学生）や学生相談室・保健管理室（障がいのある学生）が中心となって対応している。授業担当教員は当該学生のプライバシーを配慮しつつ、これら組織の担当者などと連携し、当該学生の学修を促している [0702b] [0702c] [0702d]。各教育プログラム（EP）の特性を考慮し、学生の学修支援、補習教育、正課外教育、成績不振学生への対応などを EP 別に記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語学 EP(英語)：学習支援室に英語の時間帯（90 分）を月曜から金曜まで毎日設置して学習支援を実施しており、一部の科目において、プレイスメントテストを利用して成績不振者の状況を把握するよう努めている [0702a] [0702e]。</li> <li>・語学 EP（外国語）：一部の語学入門科目で、チューデントアシスタント制度を利用し、言語に堪能な上級生を雇用している。「質問しやすい、目標になる」などの理由から、受講生に極めて好評である [0702f]。</li> <li>・語学 EP（日本語教育）：定期的なミーティングにおいて出席・成績不良者の情報を共有し、対応している [0702g]。</li> <li>・語学 EP（日本語スキル）：原則、秋学期に 5 クラス、日本語スキル A 不認定者に対する再履修クラスの設置を行っている [0702h]。5 回目の授業終了後、2 回以上欠席した学生を把握し、学科主任への出席不振者の連絡を行っている [0702i]。</li> <li>・情報 EP：授業時間外においてもメールなどで学生からの質問を受け付けている。</li> <li>・健康とスポーツ EP：担当科目におけるクラス内で成績不振、障がいがある、精神的不安定である等の学生に対して、EP 内で意見交換を行い、対応策を考え、学科の担当教員と情報共有をして修学支援を行っている。また、課外活動においても技術力、人間力向上を促す指導をしている [0702j]。</li> <li>・教養課題 EP（科学技術リテラシー）：中部大学では学習支援室が効率的に機能している。科学技術リテラシーのメンバーは、正規の担当時間外にも学習支援室の活動に積極的に参加し、学習指導を行っている [0702k]。</li> <li>・特定課題 EP：学生支援の実践例について情報共有するため、意見交換をする会合を、当該期間全 3 回開催し、地球科学系科目の理解を望む学生を支援するため、正課外教育として野外教室「恐竜の時代体験バスツアー」を実施した [0702l] [0702m]。</li> </ul>
--

・教職課程 EP：正課外として、学校見学や1日インターン、自主勉強会を実施。また、成績不振等の学生の面談指導を随時行っている。[0702n]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目No. 0702	語学が堪能な上級生による学習支援[0702f]。
項目No. 0702	野外教室「恐竜の時代体験バスツアー」の実施[0702m]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目No. 0702	問題をかかえた学生の状況を、当該学生が所属する学部学科の教員と、共通教育科目(例えば、健康とスポーツEP)を担当する教員との間で情報共有を行うなどの連携強化。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0702 障がいがある、精神的不安定な学生への対応を適切に行うため、学生相談室との連携やノウハウやヒヤリング、学内で実施されているFD講演会に参加して自己啓発を行う[0702o]。 地球科学系科目における理解をさらに身近なものとしてたい学生を支援するため、正課外教育として、野外教育「恐竜の時代体験バスツアー」を実施した[0702m]。	

#### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策(到達目標を含む)
0702	問題をかかえた学生の状況を、当該学生が所属する学部学科の教員と、共通教育科目(例えば、健康とスポーツEP)を担当する教員との間で情報共有を行うなどの連携強化。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0702	a	学習支援室 キャンパスライフ 中部大学 大学HP <a href="https://www3.chubu.ac.jp/student_life/support/study_support_room/">https://www3.chubu.ac.jp/student_life/support/study_support_room/</a>	○
0702	b	国際センターHP 大学HP <a href="https://www3.chubu.ac.jp/organization/international_exchange/">https://www3.chubu.ac.jp/organization/international_exchange/</a>	○
0702	c	学生相談室HP 大学HP <a href="https://www3.chubu.ac.jp/health_promotion/counseling_room/">https://www3.chubu.ac.jp/health_promotion/counseling_room/</a>	○
0702	d	保健管理室HP 大学HP <a href="https://www3.chubu.ac.jp/health_promotion/health_room/">https://www3.chubu.ac.jp/health_promotion/health_room/</a>	○
0702	e	プレイスメントテスト(クラス分け用実力テスト)とクラス分け名簿	△
0702	f	語学EP(外国語)の取り組み2020年度	○
0702	g	2019春学期講師ミーティング(2)(3)資料	○
0702	h	2020年 日本語スキル不合格者数一覧	△
0702	i	学科主任への出席不振者報告	△
0702	j	ウプト216号P14	○
0702	k	学習支援室実績	○
0702	l	特定課題EP会議議事録	○
0702	m	野外教室2019	○



0702	n	教職課程学校見学1日インターン実施スケジュール	○
0702	o	健康とスポーツEP_学生相談室発行冊子	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料    △：現部署で保管

2021年度（対象： 2019～2020年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

**基準 8 教育研究等環境**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	A
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	A
		(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>0802 (1)全学教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っている。健康とスポーツ「健康科学」、英語スキル教育科目、日本語スキル教育科目、情報スキル教育科目、教職課程科目等の開講コマ数、担当(必要)教員配置数、必要講義室数・広さ、設備・機器の整備等を検討し、重点事業計画に記載し、学長ヒアリングで要求することにより計画的に実行している。特に、語学関係(LL教室、演習室、CALL教室、マルチメディア教室、語学専用自習室「SI Room」など)およびスポーツ関係(メインアリーナ、サブアリーナ、武道体育館(剣道場・柔道場・空手道場・小体育館)、トレーニング室、卓球室、ダンス室、室内プール、メイングラウンド、サブグラウンド、野球場、テニスコート、弓道場、アーチェリー場と体育館)の施設は、当センター所属教員の検討により整備が充実している[0802a] [0802b] [0802c]。</p> <p>0806 (1)毎年各EPから出された事業計画(前年度の活動実績、今年度の状況、来年度以降の目標と目指す成果)を取りまとめた「学部等重点事業計画」を学長に提出し、ヒアリングで要求することにより整備を計画的に実行している。以下に、各EPの実施例を示す。</p> <p>個別EPの事例</p> <p>語学EP(英語)では、毎年度、教務支援課より各教員に送付される「視聴覚機器・情報機器の利用に関する調査票」に基づき、適切な環境(LL教室、演習室、CALL教室、マルチメディア教室、語学専用自習室「SI Room」など)で授業が行える教室を割り当てられるよう要望している[0806g]。また、CALL/Media教室割当表により、使用状況を適宜確認・把握している[0806a]。</p> <p>語学EP(日本語スキル)では、事業計画案で日本語スキルAの授業準備に利用する日本語スキル控室の備品・資料の充実を行った[0806h]。</p> <p>語学EP(外国語)では、年に数回行われる会議において、各言語の担当者間で開講科目やクラス数が協議された。その際に教育研究等環境の問題点について、各言語の非常勤講師からの意見を吸い上げながら検討している[0806b]。</p> <p>特定課題EP:全科目(クラス)について、目的に合った講義室が使用できているかを逐次点検している[0806d]。</p> <p>専門職EP(教職課程):専任教員ミーティングで点検し、整備を計画・実施する。[0806e]。</p> <p>0806 (2)毎年各EPから出された事業計画(前年度の活動実績、今年度の状況、来年度以降の目標と目指す成果)を取りまとめた「学部</p>
--

等重点事業計画」を学長に提出し、ヒアリングで要求することにより整備を計画的に実行している。各EPでは0806(1)で示したように、評価・点検が実施され、組織ごとに改善が検討されている。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目No. 0806	特定課題EPでは、野外教室等、授業以外の教育環境の充実のための活動について点検している[0806d]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目No. 0806	ネットワークなど大学の設備に起因する問題について大学と連携する必要がある[0806f]。

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0806	グループワーク対応の講義室の不足について問題点を共有し関係部署に改善を打診した[0806d]。学校へのICT導入が急速に進んだため、事前指導等でICT活用の練習ができるよう環境の整備を進めている[0806e]。

<今後の改善・向上計画>

項目No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0802	授業の目的に合った講義室の施設・設備の提案。

### 4. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
0802	a	語学教育センターの施設	○
0802	b	体育文化センターの施設	○
0802	c	学部等重点事業計画（2019年度と2020年度）	○
0806	a	CALL/Media 教室割当表	○
0806	b	2020年度語学EP（外国語）現状報告	○
0806	d	特定課題EP会議議事録	○
0806	e	教職課程小会議2020.12.10 要録	○
0806	f	情報EP会議2019.4.24議事録	○
0806	g	授業における視聴覚機器・情報機器の調査	○
0806	h	日本語スキルA備品請求書	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

**基準 9 社会連携・社会貢献**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2) 社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
		(3) 地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>0902(2) 語学EP（英語）：専任教員が高大連携科目として資格英語ABを開講している[0902a]。</p> <p>0902(2) 語学EP（英語）英語の各クラスにおいて参加可能な留学プログラムを学生に紹介し、参加を促している[0902b]。</p> <p>0902(2)(3) 語学EP(日本語教育)：中部大学短期留学生が、春日井市内の小学校を訪問して小学生たちと交流し、異文化交流・理解に努めた。本企画は地方自治体との協力行事である[0902c]。</p> <p>0902(2) 語学EP(日本語スキル)：日本語検定の問題作成について、検定委員会への提言・助言をした[0902d]。</p> <p>0902(2) 健康とスポーツEP：教員個々がスポーツのトップアスリートの経歴を持ち課外活動などを通して地域や社会への貢献に努めている。具体的には、競技団体のコーチ、国体の監督、全国各地の指導者向け講習会、大学生・高校生・青少年対象の実技講習会等を行っている。また、剣道では、海外での講習会に招聘されるなど国内だけでなく幅広い活動を行なっている[0902e]。</p> <p>0902(2) 教養課題EP（人文・社会リテラシー）：海外でフィールドワークをおこなう研究者は、研究成果を地域住民が参加できる公開講演会で公表し、また国際交流事業として、海外での調査に加えて、海外から共同研究者などを招聘している[0902f]。</p> <p>0902(3) 海外フィールドワークで得られた資料は、中部大学民族資料博物館と連携して展示している[0902g]。また、人文・社会リテラシー科目の芸術関連の授業を担当する教員によって、中部大学民族資料博物館における企画が実施されている[0902h]。さらに、人文・社会リテラシーの音楽関連の授業を担当する教員によって、中部大学キャンパスコンサートが企画、実施され、広く市民に公開されている[0902i]。</p> <p>0902(2) 教養課題EP（科学技術リテラシー）：数学の面白さを広く社会に伝える「数学キャラバン」において、科学リテラシーのメンバーが企画・司会を担当し、数学を社会に発信することに貢献した[0902j] [0902k]。</p> <p>0902(2) キャリアEP：キャリア教育科目の単位は、COC事業として始められた地域創生メディエーター（春日井市民</p>
---

とともに地域の多様な問題解決に取り組む実践型の体験学習)の資格取得の条件になっているため、地域交流事業に間接的に貢献している[09021]。	
0902(2)教職課程EP：本学が実施している教員免許状更新講習に講師を派遣し講習を実施した[0902m]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目No.	特になし。
項目No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目No.	特になし。
項目No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0902 健康とスポーツ EP では、専門種目を通して高いレベルの社会貢献を行うために日々絶え間ない実技研修とコーチング論の研究・実践を必要とし、大学生との課外活動での指導は必須である。	
0902 「数学キャラバン」への主体的取組や併設校向けの模擬講義講師派遣、大学入試問題研究会などへの積極的参加など多くの活動を展開して、適切な情報発信を行うよう心掛けている。	
0902 社会人聴講生が受講できる講義と聴講生の数の増加が必要とされる。	

<今後の改善・向上計画>

項目No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0902	人間力創成総合教育センターにおける社会連携・社会貢献の方向性・あり方について、今後もさらなる検討が必要である。

### 4. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
0902	a	「資格英語」シラバス	○
0902	b	国際センターHP <a href="https://www3.chubu.ac.jp/organization/international_exchange/">https://www3.chubu.ac.jp/organization/international_exchange/</a>	○
0902	c	小学校訪問資料	△
0902	d	日本語検定問題検討会参加資料	△
0902	e	2019年度教育・研究活動に関する実態資料（別冊）pp. 198-199.	○
0902	f	公開講演会「西アジア考古学・文化遺産セミナー」 <a href="https://www.chubu.ac.jp/news2/images/4159_attach.pdf">https://www.chubu.ac.jp/news2/images/4159_attach.pdf</a>	○
0902	g	中部大学民族資料博物館・展示紹介 <a href="https://www3.chubu.ac.jp/museum/guide/">https://www3.chubu.ac.jp/museum/guide/</a>	○
0902	h	中部大学民族資料博物館 催事報告 <a href="https://www3.chubu.ac.jp/museum/report/">https://www3.chubu.ac.jp/museum/report/</a>	○
0902	i	キャンパスコンサート開催記録 <a href="https://www3.chubu.ac.jp/music_event/campus_concert/records/">https://www3.chubu.ac.jp/music_event/campus_concert/records/</a>	○
0902	j	第31回JST数学キャラバン：拡がりゆく数学の世界	○
0902	k	創発数理の集い	○

0902	l	地域創成メディエーターパンフレット	○
0902	m	2019 年度 中部大学教員免許状更新講習日程表	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料    △：現部署で保管

2021 年度（対象：2019～2020 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

**基準 11 大学独自の評価項目**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施して、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 (2)人間力創成総合教育センターには、副学長や学部長等が参加し組織的議論を行う人間力創成総合教育センター調整企画会議、教育プログラム長等が参加する人間力創成総合教育センター運営委員会、専任の所属教員が参加する（通常の教授会に相当する）人間力創成総合教育センター教員会議があり、各教育プログラムは必要に応じて会議を行っており、議事録作成に関する手続きも行われている[1120a]。 2019年度に人間力創成総合教育センターは「運営委員会」を2回、「調整企画会議」を1回、また「教員会議」を10回（内1回は、審議の迅速化を図るためにメール審議を採用）、それぞれ開催し、持続的に業務内容の点検を行い、それぞれ議事録を作成した[1120b][1120c][1120d]。会議における議事録はメールで構成員全員に配布して共有し、加筆修正を加えて議事の正確性を確保した。 2020年度に、コロナ禍において対面での会議が厳しい中、人間力創成総合教育センターは「運営委員会」を1回メールで開催し、また「調整企画会議」を1回対面で開催し、さらに「教員会議」を11回メールで開催するとともに、総合教育充実ワーキングを6回対面で開催し、持続的に業務内容の点検を行い、それぞれ議事録を作成した[1120e][1120f][1120g][1120h]。会議における議事録はメールで構成員に配布して共有し、加筆修正を加えて議事の正確性を確保した。	
長所・特色	<< 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No.	特になし
項目 No.	
課題事項	<< 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点
項目 No.	特になし
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120(2) 人間力創成総合教育センター調整企画会議、人間力創成総合教育センター運営委員会、人間力創成総合教育センター教員会議を開催し、現状と課題を議論して自己点検・評価を実施し、業務内容について点検している。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120(2)	より良い教育を目指し、責任組織としての業務内容の検討を行うために、全学における人間力創成総合教育センターの立ち位置やセンターの目的を再確認し、カリキュラムや教育内容を充実させるための各教育プログラムの見直しを行うとともに、全学共通教育の担当についてルールを確立して各学部の協力を徹底する。また、人員の再配置についても議論を行う。また、学園ビジョンに基づいたセンターの再構築について議論を進める。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	人間力創成総合教育センター規程	○
1120	b	2019 年度人間力創成総合教育センター運営委員会議事録	○
1120	c	2019 年度人間力創成総合教育センター調整企画会議議事録	○
1120	d	2019 年度人間力創成総合教育センター教員会議議事録	○
1120	e	2020 年度人間力創成総合教育センター運営委員会議事録	○
1120	f	2020 年度人間力創成総合教育センター調整企画会議議事録	○
1120	g	2020 年度人間力創成総合教育センター教員会議議事録	○
1120	h	2020 年度総合教育充実ワーキング議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料    △：現部署で保管